

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 石峯 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、英語）

教科に関する調査（国語、数学、英語）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

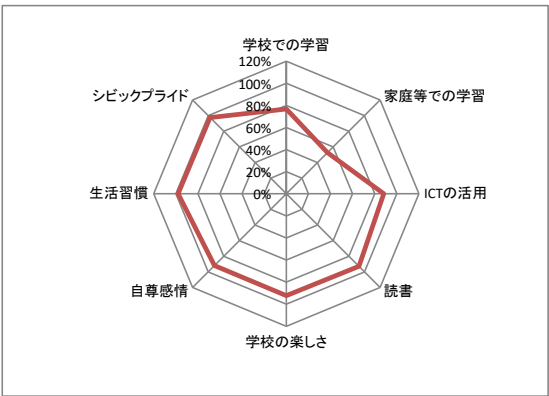
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	目的や場面に応じて内容を検討する問題での正答率は全国平均レベル並ぶ値であった。また、選択式の問題に関しては、比較的正答率が高かった。しかし、記述式の問題では無回答率が高く正答率も低かった。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	「インタビューの前に準備したメモについて説明したものとして適切なものを選択する」問題	下回っている
	努力が必要な問題	「自分がどのように本を読みたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く」問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	四分位範囲やグラフに関連する問題での正答率は全国平均に近い値となった。短答式・記述式の問題では無回答率が高かったが、記述式の問題では全国平均を下回った。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	数の意味の理解や基本的な計算問題、「データの活用」の領域に関する問題	下回っている
	努力が必要な問題	「結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見出し、説明することができるかどうかみる」問題	
英語	全体的な傾向や特徴など	基本的な語彙力や日常表現は身に付いている。文法問題は課題がみられる内容だった。回答率が高く、どのような問題でも積極的に取り組んでいる。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	英文だけでなく、図やグラフも交えた選択式の問題	下回っている
	努力が必要な問題	読み取る問題、記述する問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・「朝食を毎日食べているか」との問いに対して約80%の生徒が肯定的に回答しているが、全国平均と比べると、割合が低い。
・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」との問いに対して約90%の生徒が肯定的に回答している。
・「自分にはよいところがあると思いますか」との問いに対して、「当てはまる」と答えた生徒が全国平均に比べて多い。主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びが、生徒の自己有用感等に影響すると考えられるため、今後も学校全体で授業改善を進め、生徒が「わかった」「おもしろい」と思える授業にすることが必要である。
・学校の授業以外で勉強している時間が1時間以上の生徒の割合が、全国平均よりも低いため、本校の補充学習の取組を一層改善していく必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

基礎的・基本的な内容の定着を目指した授業を展開するとともに、放課後学習室を定期的に開設して生徒の主体的な学びの場を設定する。また、授業では、自分の考えや身に付けた知識をアウトプットする場面を設定することで、記述する力を育成する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

本校の家庭学習用ノート（ステップアップノート）と朝自習、放課後の学習時間（石峯タイム）の取組を連動させた学習習慣の定着を図る。国語・数学・英語の学習コンクールを活用し、「やればできる」という意識を高め、家庭学習への意欲向上を図る。